

一〇。徳川家康御内書（折紙）

解説

慶長五年（二六〇〇）五月、徳川家康は上杉景勝を討つため諸大名に会津出陣を命じ、七月二日、自ら江戸城に到着した。本文書は、そのような家康のもとに大友家臣と思しき柴田佐渡守が絵図と土産物を贈ったのに対し、家康が礼を述べ、来る（七月）二十一日には会津に出馬する予定であることを告げている。ちなみにこの二日後、石田三成は毛利輝元を総大将に戴いて拳兵、八月一日には伏見城を落としたため、下野国小山にいた家康も兵を返し、九月一日には江戸を出発。十五日には両軍が関ヶ原で激突することとなる。